

誰もが知りたい

ローザンヌ宣教シリーズ

No.20

シンプル・ライフ・スタイルへのすすめ

～簡素な生活様式への神の招き～



Let
the Earth hear
His Voice

**Lausanne
Occasional
Papers**

No.20

An Evangelical Commitment to Simple Life-style

Exposition and Commentary by Alan Nichols

An introduction by John Stott and Ronald J. Sider

Lausanne Committee for World Evangelization

関西ミッション・リサーチ・センター/日本福音同盟

誰もが知りたい

ローザンヌ宣教シリーズ

№. 20

シンプルライフスタイルへのすすめ

～簡素な生活様式への神の招き～

(1985 年)

目 次

序	1
前 文	4
1. 創 造	6
2. スチュワードシップ	10
3. 貧しさと富	14
4. 新しい共同体	21
5. 個人の生活様式	26
6. 国際的啓発	33
7. 正義公正と政治	38
8. 伝 道	44
9. 主の再臨	51
私たちの決意	53

序

「生命」と「生活様式」とは明らかに密接な関係にあり、切り離すことはできない。クリスチャンは皆、イエス・キリストから新しい生命を受けていることを信じ告白している。それでは、クリスチャンにとって、どの様を生活様式が適切なのだろうか。生命が新しいならば、その生活様式もまた新しくあるべきである。そしてその特徴、性格はどのようなものであろうか。特にそれはキリストの信仰を告白しない人々の生活様式と、どの様なちがひがあるのだろうか。更に、それは今日の世界一神と、神が人類の福利のために創造された天然資源から断絶している世界一の挑戦を如何に反映していくべきであらうか。

これらの問題があつて、1974年に開かれたローザンヌ世界伝道会議参加者達は、ローザンヌ誓約第九項に次の文を加えることになったのである。「私たちはみな、多くの人々が貧苦の中にあることに衝撃を受けており、その原因となっているさまざまな不正不義に対し心の痛みを覚えている。私たちのうち、恵まれた境遇の中に生活しているものは、救援活動と伝道の両面においてより積極的に貢献してゆくために、簡素な生活様式を取り入れてゆくことを、私たちのつとめとして受け入れる。」この言いまわしについては多くの討議がなされ、その意味するところを更に深く検討する必要があることが明らかになった。

そこでローザンヌ世界宣教委員会の神学と教育部会と、世界福音同盟の神学委員会の倫理と社会部会が、その問題に関する二年間の研究と、それに続く国際的会合を共同主催することになった。地区別の会合が15ヶ国でもたれ、地域別大会はインド、アイルランド、米国で開かれた。そして1980年3月17日から21日まで、英国ロンドンの北約28キロにあるハイリー・カンファレンス・センターで、^{シンプル}「簡素な生活様式」^{ライフスタイル}に関する国際コンサルテーションが開催されるに至ったのである。ここには27ヶ国から85名の福音派指導者達が

集まった。

私たちの目的は、簡素な生活様式を伝道、救済活動、そして正義公正との関連において学ぶことにあった。それは、この三点がローザンヌ誓約の簡素な生活に関するところで述べられているからである。私達の観点は聖書の教えと苦悩する世界の両面からであった。苦悩する世界とは、神のかたちに創造され、神の愛の対象であるにもかかわらずいまだ福音が伝えられていない人々、抑圧されている人たち、あるいはその両方で苦しめられ、救いの福音と生活の基本的な必要にあずかっていない数多くの人々である。

四日にわたるコンサルテーションの間、私たちは生活を共にして祈り、礼拝し、聖書を学び発題講演を聞き（本になって出版される予定だが）、神学的問題と経済的論点を如何にして関係づけるかに苦勞し、全体会議でも分科会でも討議をかさね、共に泣き、悔い改め、そして決議へと導かれた。最初は先進国と発展途上国の代表者達との間にいくつか緊張感があったが、終るまでには、一致の御霊が私たちを互いに尊敬し、愛し合う新しい連帯へと導き入れて下さった。

何よりも、私たちは神のみ言葉と困窮する世界のチャレンジを忠実に誠実に受けとめるように努めた。それは神のみことを知り、それを遂行させていただくためのあわれみを求めるためであった。その過程において私たちの思いは広げられ、良心はとがめられ、心は奮起させられ、決意は強められた。

このローザンヌ宣教シリーズは、「簡素な生活様式への福音的誓約」の声明を項目ごとに解説している。その原文は論文や討議から起草されて、三時間におよぶ全体会議での注意深い学びと意見の交換、同意がなされ、改訂されたものが最後の全体会議に再提出され、さらに二、三の細かい修正のあと採択されたものである。参加者は個人的に署名して誓約に同意することを求められたわけではないが、これは事実上コンサルテーションの賛同を表している。

また私たち一人一人も個人的に応答して誓約をした。

この解説書は私たちの依頼により、オーストラリアの参加者アラン・ニコルス氏が著述し、コンサルテーションの見解が広く教会の用に供せられることを目的としている。

ニコルス氏は個人的な見解を述べてはいるが、これらの重要な問題について広くキリストの教会の関心を高め意識を鼓舞するために、こうして出版されることを喜びとするものである。

この課題についてはすでに何年か取り組んでいる人々がいることを思うと、私たちは遅れをとっていると思う。したがって、私たちはこのコンサルテーションや誓約が独自のものであると主張する意図はない。ましてや、これを誇るべき根拠はない。しかしながら、私たちにあってコンサルテーションは歴史的であり、かつまた変革的であった。

私たちは、この小冊子が個人的にも教会によっても広く学びのために用いられて、私たちが体験させられたように、多くのクリスチャン達が心動かされ、決断と行動へと導かれるように願い祈るものである。

ジョン・ストット

ローザンヌ世界宣教継続委員会神学・教育活動委員会・委員長

ロナルド・J・サイダー

世界福音同盟神学委員会倫理・社会部会委員長

1980年10月